



■水道

3月12日から29日まで、上水道課の職員延べ6人が宮城県仙台市で給水活動を実施。上の写真は宮城県仙台市の東北工業大学での給水活動、下の写真は仙台市内の広場での給水活動



■救援物資の配送

3月16日から4月1日までの間、市職員27人が延べ13回にわたり被災地へ救援物資を輸送。宮城県の多賀城市・南三陸町、岩手県大槌町、福島県のいわき市・南相馬市・伊達市へ、灯油や軽油、肌着、毛布、タオル、靴下、マスク、トイレットペーパー、水、おむつなどを届けた。灯油や軽油の輸送時には、市内の燃料販売業者からタンクローリーの提供があった



■保健師の派遣

3月26日から4月1日まで、市の保健師1人を派遣。岩手県大船渡市の避難所を巡回し、健康相談や健康チェック、衛生管理の支援にあたった。写真は大船渡中学校



■消防

3月12日から21日まで延べ10人が宮城県多賀城市や塩釜市で活動。安否確認や消火活動などを行った。写真は宮城県多賀城市での消火活動



■アムダに電気自動車を

震災直後、被災地でガソリンが不足していたため、アムダの医療支援活動の移動用に市所有の電気自動車2台をアムダに貸し出した。電気自動車の輸送は市内の運送業者が担当。現地には3月18日に到着。上の写真は、岩手県大槌町内を走る電気自動車(写真提供=河田雅史さん(西阿曾)、下の写真は3月16日、市役所を出発するアイミーブ

■炊き出し

岩手県釜石市と大槌町内の3か所で3月20日・21日、総社青年会議所と市が共同で豚汁約1500食の炊き出しをした。写真は釜石中学校での炊き出し



救援物資の輸送では、電気自動車の輸送や灯油や軽油を運ぶタンクローリーの提供などで市内の事業所の協力をいただきながら、市職員2人1組で、延べ13便にわたり被災地へ、水や食料、燃料、衣料品、日用品などを運びました。

岩手県釜石市と大槌町では、総社青年会議所と連携して豚汁の炊き出しを実施。震災直後の一刻を争う時期に、現地での医療支援でアムダと連携し、移動用に市の電気自動車を持ち込みました。

市では、東日本大震災が発生した翌日の3月12日から被災地を支援しようと、消防や水道、保健師などの職員を現地へ派遣したのをはじめ、現地で求められている救援物資を市職員が直接現地へ輸送しました。

アムダと連携し現地で活動

全力で支援

東日本大震災の被災地